

銚子の誇りを後世に伝えたい…

偉人伝心



▲次郎右衛門が開港した外川漁港とその町並み



▲次郎右衛門に関する資料が展示されている外川ミニ郷土資料館
／銚子電鉄外川駅下車徒歩1分



▲外川漁港前の民宿「文治」の敷地に残る築港に使用した礎石(右奥)

外川のまち開発の祖

さきやまじろうえもん 崎山 次郎右衛門

元禄元年[1688]78歳で死去



▲次郎右衛門の功績をたたえる碑／大杉神社

紀州和歌山出身の次郎右衛門は、明暦2年(1656)に銚子・飯沼村(現、銚子市東部地域)に移り住み、マカセ網と呼ばれる新しい漁法でイワシ漁を始めました。

万治元年(1658)には、外川浦の波止場の築港工事を始め、これと並行して外川の町並み整備を進めました。

大正11年(1922)の改修までの約250年間、一度も修理されなかったという見事な築港は、わずか6年で完成。町並み整備では、波止場を中心に自然をたくみに活かし、縦横に街路を走らせた碁盤目状の区画整理を行いました。

また、次郎右衛門は、紀州から多くの人々を外川に呼び寄せ、漁業と海運を営み、当時の外川の盛況ぶりは、今でも「外川千軒大繁昌」と語り継がれています。

このように当時、名実ともに関東一の外川港を築港した次郎右衛門の先覚的な業績は語り継がれるべきものといえるでしょう。

※崎山次郎右衛門は、崎山治郎右衛門と表記される場合もあります。

今月の表紙



笑顔で銚子を元気に!
福娘ミス観音コンテスト

4月26日、銚子銀座通り(ココロード銚子)で「第5回銚子夜まつり&春の市」が開催されました。

今回の目玉は「福娘ミス観音コンテスト」。地元銚子を愛する健康で明るい女性11名がエントリーし、グランプリの「福娘ミス観音」には真久知子さん(春日町・写真中央)が、準グランプリの「福娘」には大木美佳さん(笠上町・写真左)と山本麻奈美さん(上野町・写真右)が選ばれました。

真久さんは「びっくりして夢の中にいるようです。大好きな銚子が発展して明るい町になり、みんな元気が出るように私も頑張りたいです」と笑顔で話してくれました。受賞した3人は今後、銚子銀座の観光大使として、さまざまなイベントで活躍することになっています。

※福娘のイベント参加についての申込み・問合せは、銚子銀座商店街振興組合 ☎(25) 1666へ